

信愛館だより

Vol.124
2017年4月号

発行/ケアハウス信愛館
近江八幡市北之庄町492-2
TEL/0748-32-2220
FAX/0748-33-7555
<http://www.vories.or.jp/>
Mail/vories@zb.ztv.ne.jp

みよ、兄弟達が一つになって共に住むことは、
（詩篇133の1）
なんというしあわせ、なんという楽しさであろう

「思い出と共に平和な世の中を願って」

社会福祉法人近江兄弟社地塩会
役員 長谷川 郁子

4月に入り私の職場の保育園では新園児を迎え賑やかな声が響き渡り私も元気を一杯もらっています。この子どもたちの将来が平和であり元気に健やかに育っていける社会であることを願っています。

私は1935年（昭和10年）父親の仕事の関係で旧満州奉天（現在の瀋陽）で生まれ、終戦とともに父親の故郷近江八幡に帰ってきました。10年間の中国での生活は私にとって沢山の思い出を作ってくれました。楽しいことも一杯、終戦の前後の悲しい思い出も一杯あります。この戦争の悲しい出来事を若い方たちに伝えるべきか、でももうそんなことに興味が無いのかしらと悩んでいます。国同士の喧嘩に市民が巻き込まれ悲しい想いをしました。わが家も中国で迎えた終戦とともに、八路軍の軍隊が庭の砂利道を踏みしめ、窓ガラスを割って侵入し金目のものをすべて持って行ってしまいました。次にロシア兵の群衆がやって来てまだ残っていそうな物品を略奪していきました。私たち2才、10才、12才の3人兄弟は母にしがみついて怖さに耐えていたように思います。戦後数年経って機会がありロシアに行ってきました。皆さんホスピタリティに満ちていました。私が地図を持って道を歩いていたらいろんな人が寄ってきて案内してくれたりトロイカに乗ろうと列に並んでいたら、あなたは外国からきて時間が無いので前に行って乗りなさいと。又知らない家庭によればロシアの生活を知ってと紅茶の入れ方を教えて頂きました。戦争の成せる技で人々は翻弄されてきたのです。人間皆いい人であふれています。中国を離れて帰る夜、中国の友人と屋根に上り二人で夜空を眺め離れ離れになってもこの「すばる」の星座を見たらお互いを思い出しましょうと約束しました。私は八幡の綺麗な夜空を眺めるのが大好きでいつも思いを中国に馳せています。

私81才なのに園児が先生将来何になりたいの？えええ？将来ね・・・次の5カ条を少しでも守り今のまま元気でいたいと思っています。

私の5カ条

規則正しく食事を採る
計画的に物事を考える
お出かけして友人とおしゃべりをする
ゲームや楽しいことを積極的にする
体を動かす



キリスト教 あいうえお「楽園」

近江金田教会牧師 横田 明典

楽園というと、苦しみのない、安楽な場所という意味で使われています。キリスト教ではこの楽園は、神によって守られた理想の世界、平和な神の国、言うなれば天国＝パラダイスとしてイメージされます。その理想はしばしば絵画等のモチーフとしても使われてきました。

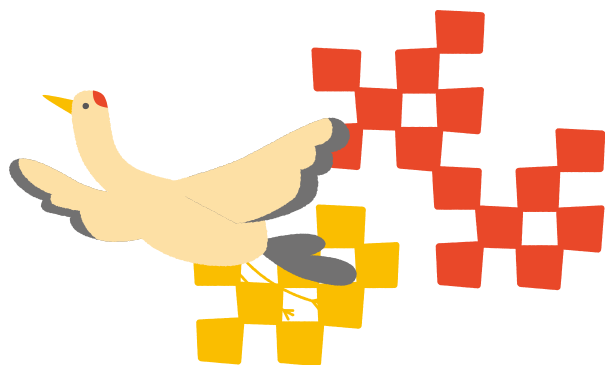
旧約聖書には「エデンの園」に関する物語があります。それはこのような楽園に住んでいた人間が、神から離れて罪を犯したがゆえに追放されたことを表しています。そして楽園を追放されてしまった人間を、なんとかして元に戻そうとされる神の姿が描かれていくことになります。

新約聖書にも楽園が登場します。イエス・キリストが十字架につけられた時、同じく処刑されようとした犯罪人の一人がイエス・キリストをかばい、「『あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる』と言われた（ルカ：23：43）」と記されています。

楽園は一つの理想ではありますが、できることならその理想の世界に近づける者でありたいと願っています。今、争いの絶えない世界ですが、国と国、人と人が争わず、お互いに思いやり、共に生きる世界が築けるのであれば、それがどこであっても楽園ということになるのではないのでしょうか。

◆ 新春かるた会（1月2日）

新春かるた会を行いました。皆さん昔を懐かしみ楽しそうです。



◆ ぜんざいの会 (1 月 11 日、2 月 19 日)



今年はぜんざいの会を二回開きました。
新米でついたお餅は最高でした。
皆さん「おいしい」と言われ
自然と笑顔がこぼれます。



◆ ひな人形飾り付け (2 月 13 日)



皆さんとひな人形の飾り付けをしました。
真剣なまなざしで、一体一体、
丁寧に飾りつけをされ、完成です。



◆ 絵本を読む会 (2 月 16 日)

4階のラウンジにて絵本を読む会を、入居者の鶴谷頼子さんにお願いしました。
今回もいろいろなジャンルの絵本を紹介して頂きました。
皆さん真剣な表情です。



◆ お寿司の会 (2 月 15 日)



皆さんお待ちかねのお寿司の会!!
目の前でお寿司を握ってもらい、
美味しそうに
召し上がられていました。



◆ ひな人形めぐり (2 月 16 日)

旧伴家住宅にひな人形を見に行ってきました。

いろいろな時代のひな人形が飾られていて、皆さんとても楽しそうに鑑賞されました。

子どもの頃を思い出されている様です。



◆ 美術展鑑賞ツアー (3 月 14 日)

「ウォルター・クレインの本の仕事」を滋賀県立近代美術館で鑑賞しました。



入居者のご紹介

南2-1 中沢 郁美

ここに寄せて頂いてから、早や三ヶ月が過ぎようとしています。若い頃から「自分ひとりの静かな暖かい部屋が欲しい」と願って居りましたが、子育てに日々の生活、仕事にと追いまわられて過ごし、齢八十にして、その願いが実現しました。今、春の陽光がさしこむ静かな居室で、ペンを執って居ります。

高校卒業時、大げさですが「生きる希望」「人生の目標」が解からなくて悩んでいた私を見かねて、友人が教会に誘ってくれ、聖書を読むようになりました。

“あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。年が寄って『私には何の楽しみもない』と言うようにならない前に”（聖書） 私は、それまで、傲慢にも自分勝手な生き方をして来たことを悔い、「この私を世に送り出し、罪深い私を赦して愛して下さいる神様」を頼りに人生を歩みたいと願うようになりました。爾来六十年、神様は私のような小さき者にも真実を盡して下さいます。

その後、良き家庭にも恵まれ、健康で現役続行、夫婦で老後については余り語り合う時をもたぬまゝ、忙しく生きて来ました。ところが、一昨年、夫が急逝し私もハタと先き行きを考えねばならなくなりました。

おこがましい表現ですが、それまでは、出来るだけ他様の世話にならず、むしろ周囲の人々の何らかの助けになるようにと努めてきましたが、これからは、逆の立場に居る自分に気がついたのです。

先に入所されていた知人たちの勧めもあり、又、神様が必要を与えて下さいましたので、入所を決心しました。これからは身辺整理をしながら、平穏な、しかし充実した日々を送りたいと願っております。行き届いた配慮の施設長、スタッフの皆様。食事を作って下さる方々。又、明るく親切に接して下さいる先輩の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



若き力に、われかこまれ、
守りなぐさめられて
世の悩み 共にわかち
新しい日を 望もう

善き力に守られつゝ
来たるべき 時を待とう
夜も朝も いつも神は
われらと共にいます

(讃美歌 21)

編集後記

ようやく春らしい季節になってきました。今月から新年度が始まります。社会人になり、1年がたちました。学ぶことがたくさんあった1年でした。今年度も、初心を忘れることなく、何事も真剣に取り組んでいきたいと思います。